

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表： 令和 5年 4月 1日

42

事業所名 宇都宮市子ども発達センターかすが園・若葉園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	38	4	・雨の日など、室内活動の際に、遊ぶスペースが混み合う場合には、事前にクラスごとに時間で割り振っている。	・法令基準を満たしています。 ・遊戯室など共有スペースは、混み合うこともあるので、今後も状況に応じて活動内容を変えたり、空きスペースを有効活用するなど工夫しながら、安全面に十分配慮してまいります。
	2	職員の配置数は適切である	37	5	・法令基準を上回る職員を配置しており、子どもの特性や場面に合わせて、個別対応ができるようにしている。	・今後も子どもの特性や活動内容、療育プログラムに応じた対応ができるよう、適切な人員確保に努めてまいります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	42	0	・療育室内を構造化し、生活しやすい環境を整えるとともに、手順書や個別スケジュール等を活用し、次に何を行うか、どのように行うか等が子どもに分かりやすいよう示している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	41	1	・園児が登園する前に、活動内容に合わせて環境を整えるなど、療育がスムーズに行えるように配慮している。 ・常に衛生面に配慮し、加湿・空気清浄器を使用するとともに、適宜消毒を行っている。 ・パーテーションを使用し、活動に合わせた空間を作っている。	・今後も国の感染症対策ガイドライン等に基づき、感染防止や安全・衛生面に十分配慮しながら、お子さんにとって安全安心な療育環境を整えてまいります。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	41	1	・実施している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	42	0	・各行事や保護者学習会等を実施した際に、アンケートにより保護者の意向を把握し、事業内容に反映している。 ・平成30年度からは「児童発達支援ガイドライン」に基づく児童発達支援評価票を用いて、保護者による評価を実施し、その結果を公表するとともに今後の業務改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	41	1	・年1回保護者からの評価と自己評価で事業所の評価を行い、その結果をもとに、職員間で改善内容などを話し合うとともに、ホームページ等で公表している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	38	4	・第三者評価は受審していないが、年度毎に、園内で療育内容、職員の療育姿勢などの評価・反省を行い、業務改善に努めている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	41	1	・確保している。(園内研修の実施及び外部研修の受講機会の確保)	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	42	0	・保護者とコミュニケーションを密にとり、親身に寄り添いながら、専門職による評価を踏まえ、計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	40	2	・絵カード、スケジュール表などのアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	40	2	・設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	42	0	・実施している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	39	3	・子どもの発達状況や興味等に応じて、専門職の意見も踏まえながら活動内容を検討し、プログラムを作成している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	42	0	・活動内容については、同じような療育が続かないよう工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成している	42	0	・作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	41	1	・実施している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	40	2	・気づいた点、反省点などは、なるべくその日のうちに話し合いの場を設けて、改善内容等について共有している。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	40	2	・実施している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	41	1	・相談事業所のモニタリング時に情報交換したり、定期的に専門職と情報交換しながら支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	40	2	・サービス担当者会議には、クラス担任や日頃から子どもの状況に精通した職員及び児童発達支援管理責任者等が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	41	1	・地区の保健師や相談支援員、他の児童発達支援事業所職員等、子どもの状況に応じて適宜連携しながら支援を実施している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	39	3	・地区の保健師や、相談支援員、訪問看護師や医療機関等と連携し支援している。	・関係機関がより連携して支援できるよう、子どもの状況について密に情報共有を図りながら、迅速に対応してまいります。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	38	4	・主治医や医療機関等関係機関から、お子さんの状態や医療的ケアの実施方法等について情報提供書や指示書をもらうなど、連絡体制を整備しています。	・今後も、各関係機関等と連携を図りながら進めてまいります。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	41	1	・相互の施設を訪問し、子どもの状況確認や担任との情報交換を行い相互理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	40	2	・個別支援計画を小学校や特別支援学校に送付するとともに、必要に応じて直接情報交換を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	39	3	・他の事業所を併用している児童もいることから、支援内容等の情報交換を行うほか、それぞれの事業所の療育内容について情報共有を行い、事業所全体のスキルアップに努めている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	42	0	・併設された保育園の園児と、新型コロナウイルス感染症感染防止に配慮し、内容を工夫をしながら交流活動を実施している。	・今後も感染防止対策を行いながら、交流活動を継続して実施してまいります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	26	16	・宇都宮市子ども発達センター所長が参加し、会議内容についてはセンター内で情報共有している。	・協議会等へは積極的に参加し、会議内容等を職員会議や回覧等で共有しているところであり、今後についても会議の目的や会議内容について、更なる情報の共有に努めてまいります。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	42	0	・実施している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	34	8	・新型コロナウイルス感染防止対策のため、人数制限を設ける等、3密を避けた実施方法や内容で実施している。	・今後は、感染症の状況に注視し、必要な感染防止対策を実施しながら、親子活動や保護者学習会などを積極的に実施してまいります。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	41	1	・契約の機会を利用して、内容を理解してもらえるよう丁寧に説明をしているほか、質問等には個別に対応している。	・今後も丁寧な説明を心がけてまいります。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	42	0	・個別の支援計画作成時に、個人懇談を実施し保護者に丁寧に説明するとともに、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	41	1	・実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	41	1	・感染防止対策を図りながら、親の会活動を実施するほか、クラス懇談を実施し、保護者同士の交流を図っている。	・今後も必要な感染防止対策を行いながら、保護者の交流が図れる機会を提供するなど、支援を実施してまいります。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	42	0	・対面や電話、電子連絡帳などにおいて相談を受けた際には、クラス内で十分話し合いをもち、迅速かつ適切に対応している。 ・また、内容に応じて、園全体で共有することで、職員が同じ対応をとれるようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	41	1	・園だよりやここ・ほっと通信などを発行(配信)している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	42	0	・個人情報保護に関する同意書に基づき適切に実施している。	
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	42	0	・実施している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	28	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ・ほっとまつりや運動会に地域住民等を招待し交流するなど、ノーマライゼーションを推進している。 ・令和4年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、地域交流は難しい状況だったが、掲示板にて行事を知らせたり、地域の銀行に子どもの作品を展示したりして、事業所について理解を求める取り組みを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、必要な感染防止対策を実施しながら、地域交流ができるよう、内容を検討してまいります。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	42	0	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	42	0	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	41	1	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	42	0	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	38	4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月安全会議を行い、事故やヒヤリハット事例をまとめたものを報告し、危険個所の把握や改善策などの情報共有を図るとともに、その都度、事例の報告等も行い、危険回避のために必要な対応をとっている。 ・事故やケガ、ヒヤリハットについては、毎日の終礼にて内容を報告し、職員間で情報共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、事故やケガ、ヒヤリハット等については、毎日の終礼にて報告し合い、職員全体で共有し、共通の対応が図れるよう実施してまいります。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	34	8	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止に関する研修については、職員に周知し積極的に受講するようにしている。 ・園内研修等において、外部研修に参加した職員から研修報告を受けたり、虐待に関する自己チェックリストを活用し、職員間で虐待に関する認識などの情報共有を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止については、「虐待に関する自己チェックリスト」を活用し、常に、子どもへの関わりが適切であったかについて、振り返りを実施するよう、職員全体に求めてまいります。 ・また、子どもへのよりよい関わり方や対応方法については、園内研修にて事例検討を実施するなど、人権を尊重した関わり方ができるよう、引き続き取り組んでまいります。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	35	7	<ul style="list-style-type: none"> ・やむをえず身体拘束が必要となった場合については、施設内で検討し決定したうえで、事前に必ず直接保護者の了解を得るようにしている。なお、身体拘束に関する事項については、契約の機会を利用して、重要事項説明書の中で説明をしています。 		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。